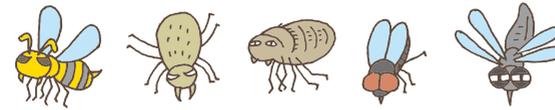


虫刺され



小さい子どもほど強い反応がでる



虫刺されは2~6歳の子どもの多く、蚊、ハチ、ダニ、ブヨ、ムカデなどが多いです。子どもの虫刺されは、大人より症状がひどく、長引きやすいのが特徴です。蚊に刺されることを繰り返すと次第に免疫ができて体が慣れるため、小さい子どもほど強い反応が出ます。一方で、ハチやムカデは刺されているうちに抗体ができ、次に刺されたときにアナフィラキシーを起こすことがあります。

おうちケアのポイント

Point かゆみを抑える

ムカデのときは無理にとらずに受診しよう!!

1 石鹸などでよく洗って流水で流す

虫の針が残っている場合あり!

2 患部を氷のうなどでしっかり冷やす。

かゆみが軽くなる!

3 かゆみ止めの軟膏を塗る

抗ヒスタミン薬やステロイド入りの軟膏

4 かゆみが強い場合には抗ヒスタミン薬の飲み薬が効くことも。

かゆみ止めの...

5 じんましん、息苦しい、めまい、嘔吐など全身症状を伴う場合には急いで病院で受診!

イタイ...

皮膚科 か **小児科** へ!

予防

虫よけ

- 主成分: **ディート** 6ヶ月未満 X
- 年齢制限あり
 - 30%濃度のもは6~8時間有効
 - 6ヶ月未満の乳児は使用不可
 - 6ヶ月~2歳未満は、1日1回
 - 2歳~12歳未満は、1日1~3回

- 主成分: **イカリジン**
- 年齢制限なし
 - 塗る回数に制限なし
 - イカリジン15%濃度のもは6~8時間有効



清潔に

汗をふく

汗は虫刺されの部位を悪化させます。汗はこまめに拭き取り、シャワーを浴びましょう。



つめを切る

虫刺されはかき壊すと悪くなり、とびひの原因にもなるので子どもの爪の手入れも念入りに!



服装

ハチの巣に近づかない

薄手の長そでシャツ、靴下などを着用して手足を露出しない

野山に入るときはシャツの裾はズボンに入れ、ズボンの裾に靴下をかぶせる

白っぽい服

花模様のある服や黒い服を避ける

ハチを追い払う行動(殺虫剤やスプレー)は興奮させるのでしない!

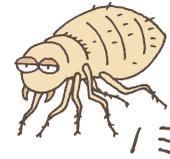
むやみにヤブに入らない



小さい子どもの場合、刺されてすぐより1~2日後に大きく腫れます。特に1~3歳は大人より強く腫れ、5~7日ほど続きます。その間にかき壊してとびひの原因になることもあります。アトピーの子どもの場合は特に症状が強くなります。



改善まで 約5~7日 **予防** ▶ 虫よけを使う
▶ 蚊取り線香 (喘息がある人は煙に注意)



太ももから下を刺されることが多いが、子どもはひざ上も刺されることがあります。数mmの小さな発疹がたくさんでき、かゆみと赤みが強く、水ぶくれになることも。2~3日でよくなり、1週間もすれば発疹は消えます。



改善まで 約3~7日 **予防** ▶ ペットのノミの駆除 (駆除シャンプーなど)
▶ ネコとの濃厚接触は避ける

蚊アレルギー (蚊刺過敏症)

蚊に刺されたときに38°C以上の熱や、リンパ節の腫れ、刺された場所に潰瘍ができた場合には病院で詳しく検査を。



蚊を媒介にする感染症

ヒトスジシマカによるデング熱やコガタカイエカによる日本脳炎などがあります。



山林の草むらなどに生息し、林間学校やアウトドアなどで刺されます。太ももから足首を刺されることが多いです。都会の大人も体がブヨに慣れていない場合が多く、症状は強く出ます。刺された直後は刺し口が出血します。水ぶくれになることも。



寝ている間に布団の奥から出てきて、特に子どもの柔らかい皮膚を刺します。かゆみは1週間くらい続きます。

特に注意! 6~9月

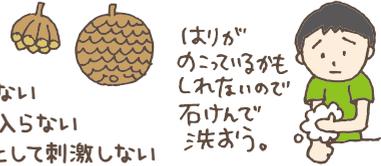
改善まで 約7日 **予防** ▶ 天気のいい日に布団を干す
▶ 部屋の換気
▶ こまめに掃除機



刺された直後から数時間以内に赤みや腫れ、痛みが出ます。数日でよくなります。

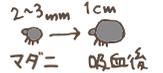
ハチが多いのは 5~10月 **特に8月**

改善まで 数日 **予防** ▶ ハチの巣に近づかない
▶ 不必要に藪の中に入らない
▶ ハチを追い払おうとして刺激しない
▶ 白っぽい服を着て、花模様や黒い服を避ける



ともに野山に生息するダニの一種。鹿や猪などが出る山や民家の裏山、畑、あぜ道に生息しています。命にも関わる重い病気を引き起こすことがあり、注意が必要。数週間は体調の変化に注意しましょう。ツツガムシは非常に小さく、刺されてもわかりません。野山に出かけて1~2週間以内に高熱、全身の発疹が出た場合には病院へ(刺し口があると診断がつきやすいですがわかりにくいこともあります)。

春~初夏・秋



改善まで 数週間 **は注意**

予防 ▶ むやみに藪の中に入らない
▶ 野山に入るときは肌の露出を少なく
▶ マダニがわかりやすいよう白っぽい服装
▶ 現場と入浴時にダニチェック
▶ 虫よけを使う (ただしツツガムシにはディートのみ効果あり)



アナフィラキシーに注意!

以前ハチに刺されたことのある人が再度同種のハチに刺されるとショックを起こすことがあり、アナフィラキシーといえます。初めて刺されたときに起こることもあり、刺されて30分以内に起こることが多いです。刺されたあとで吐き気、めまい、じんましん、息苦しいなど症状がある場合は、座って休むのではなく、周囲の人に相談してすぐに病院に行ってください。1回アナフィラキシーを起こしたり、刺された部分の反応が異常に強い場合は、次に刺されたときにアナフィラキシーを起こすリスクが高いです。これらの場合はエピネフリン自己注射用キット(エピペン)を処方してもらう必要があります。スズメバチは集団で攻撃してくるので、一度にたくさんの場所を刺されると誰でもアナフィラキシーショックを起こすことがあります。

